

ファンドレイジング日本2019

2019年9月15日

ボランティア・市民参加を促す マネジメントの極意

～「困りごと」と「あそび」がつなぐ、 社会参加促進の仕組み～

社会福祉法人 大阪ボランティア協会 理事長

特定非営利活動法人日本ファンドレイジング協会 副代表理事

認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会 副代表理事

早瀬 昇



0. トヨタ財団「市民参加研究会」とは

トヨタ財団助成「多様な人々の地域/社会参加を促進するための助成プログラム開発に向けた調査事業」の実施主体

【調査事業の目的】

- (1) 現代社会において市民の参加を促進する意義と課題を明らかにする
- (2) 現場の実践からボランティア等の地域・社会参加を促進する機能と仕組みを明らかにする
- (3) ヒアリングを通じてボランティア等の地域・社会参加が個人にもたらす変容を明らかにする



★どのような団体にどのような支援(助成金+α)をすることが、市民の力が発揮される社会づくりに寄与するかを明らかにし、この促進に向けた助成プログラムの開発を行う。

0. トヨタ財団「市民参加研究会」

【研究会メンバー】

早瀬 昇 （座長・大阪ボランティア協会 理事長）

戸田 千登美（長野県長寿社会開発センター 主任シニア活動推進コーディネーター）

永田 賢介 （アカツキ 代表理事）

西川 正 （ハンズオン埼玉 常務理事）

事務局：大阪ボランティア協会（椋木美緒）。トヨタ財団から、大野満事務局長、喜田亮子プログラムオフィサーをはじめ、多くの皆さんが参加。



0. トヨタ財団「市民参加研究会」

【ヒアリング団体】(コーディネーターとボランティアのWインタビュー)

飯田公民館(長野)、クッキープロジェクト(埼玉)、嶺町小学校PTO「保護者と先生による楽しむ学校応援団」(東京)、青少年就労支援ネットワーク静岡(静岡)、山科醍醐こどものひろば(京都)、大阪ボランティア協会(大阪)、ブレンヒューマニティー(兵庫)、岡山NPOセンター(岡山)、アカツキ(福岡)、ふくおかFUN(福岡)、改革プロジェクト(福岡)、チャイルドライン「もしもしキモチ」(福岡)、日本セラピューティック・ケア協会(福岡)、唐津環境防災推進機構KANNE(佐賀)、一万人井戸端会議(沖縄)…の**15団体**

【パイロット助成団体】

こまちぷらす(神奈川)、NPOインターンシップラボ(アクションポート横浜。神奈川)、Together(大阪)、ダウン症ファミリー総合支援 めばえ21(大阪)、I-D0(福岡)、ニコちゃんの会(福岡)…の**6団体**

1. 参加が生み出す5つの「意味」(ヒアリングから)

- ① 対価ではなく**共感**で活動する多くの仲間を得、「ほっとかれへん」という**民間活力**が高まる

⇒NPO(Not-for-Profit Organization:米語)に固有の「特性」はVoluntary Organisation(イギリス英語)であるから。非営利性ならば行政と一緒。

⇒当事者の問題意識を含む市民の活動意欲こそは、NPOのエネルギー源。

企画段階からボランティアの参画を進めると、“意欲”あふれるメンバーがリードする組織となり、活動を創造し課題にビビッドに対応できる活力ある組織になる。

1. 参加が生み出す5つの「意味」(ヒアリングから)

② 個々の個性から「多様な経験や専門性」が活きる

⇒ボランティアがもつ多彩なタレント性(専門性、経験、視点…)がもたらされ、事業の質が高まり、多様な課題解決策が創造できる。社会の「ませこぜ」が組織内に実現でき、多様な人々の活躍を進める組織になれる。

③ 財政的基盤の強化にもつながる

⇒ボランティアの「オーナーシップ」(「私(たち)の団体だと思ふ意識」)の高まりから、ボランティア自身が寄付者やファンドレイザーになりうる。用途の自由度が高い「共感系財源」が増えれば財政基盤も強化される。

1. 参加が生み出す5つの「意味」(ヒアリングから)

④ 参加者自身の役立ち感・自己肯定感が高まる

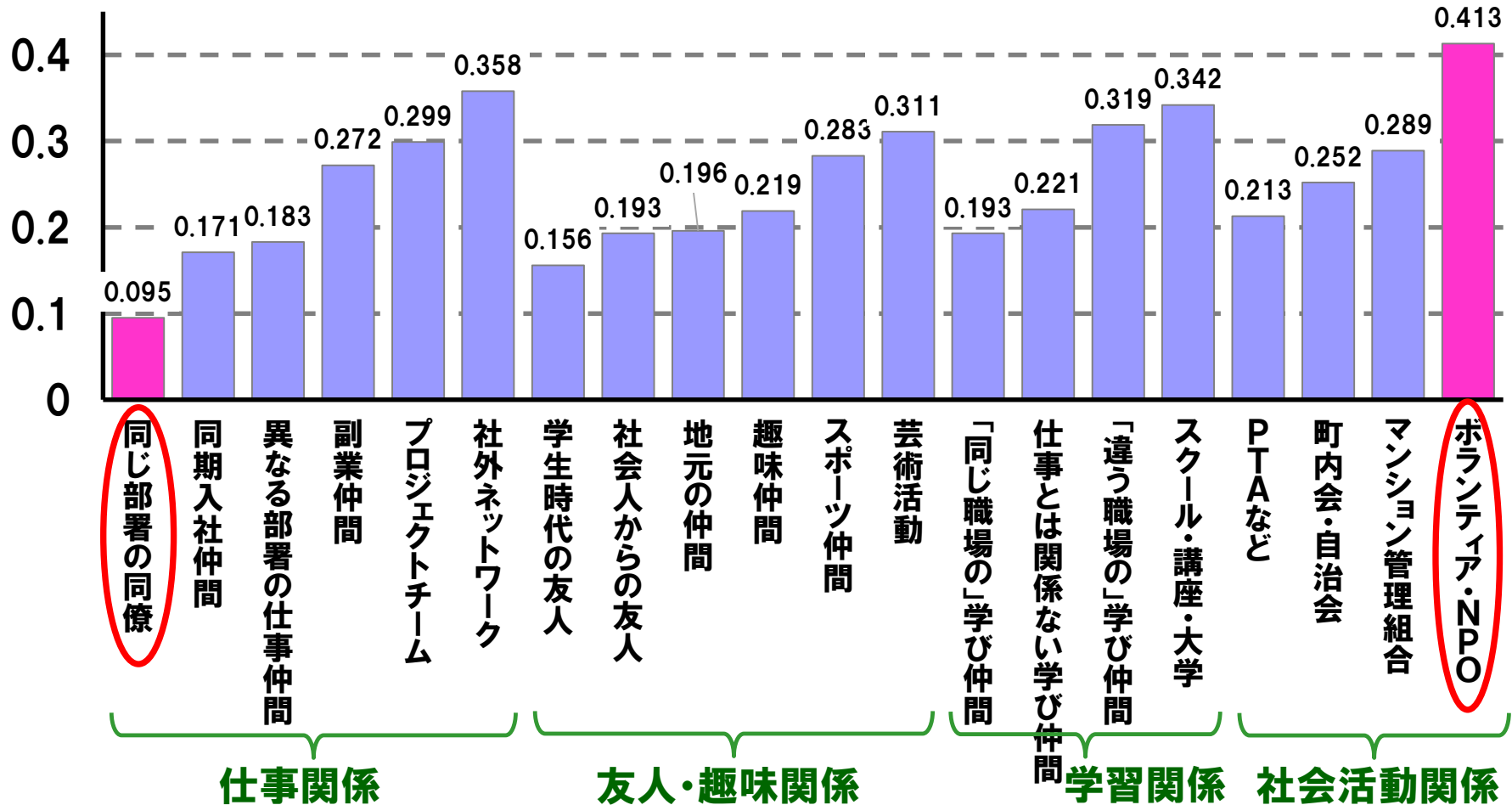
⇒自分に合った役割・出番を得ることで、参加者自身がエンパワメントされる(人を癒そうと思っていたら、自分の方が癒された…ということも)。

打算が働かない分、人々が本音でぶつかり合うことも多く、結果として密な人間関係が生まれ、仲間を得る。

社会の中で役割を得、能動的に行動する機会が増えることから自分自身を変えていく機会となることも少なくない。

※ ボランティア活動参加は「前向き」を促進

所属コミュニティと「キャリア展望」の関係(因子得点)



(出典)リクルートワークス研究所(2018)「人生100年時代のライフキャリア」の掲載図を元に一部修正。「キャリア展望」とは、今後のキャリアの見通しが開けている状態を意味し、図の数値はこれからのキャリアや人生について「自分で切り開いていける」「前向きに取り組んでいける」「明るいと思う」の合成変数。

1. 参加が生み出す5つの「意味」(ヒアリングから)

- ⑤ 団体に取り組む社会課題や団体自体の運営を
「自分事」とする人=当事者 / 市民=が増え、
人々が自ら地域を作る自治の社会が築かれる

存在として「当事者」である人(課題を抱える人々)

⇒対語:**第三者的に傍観(他人事扱い)されやすい**

・かわいそう、役所が悪い、私は関係ない……

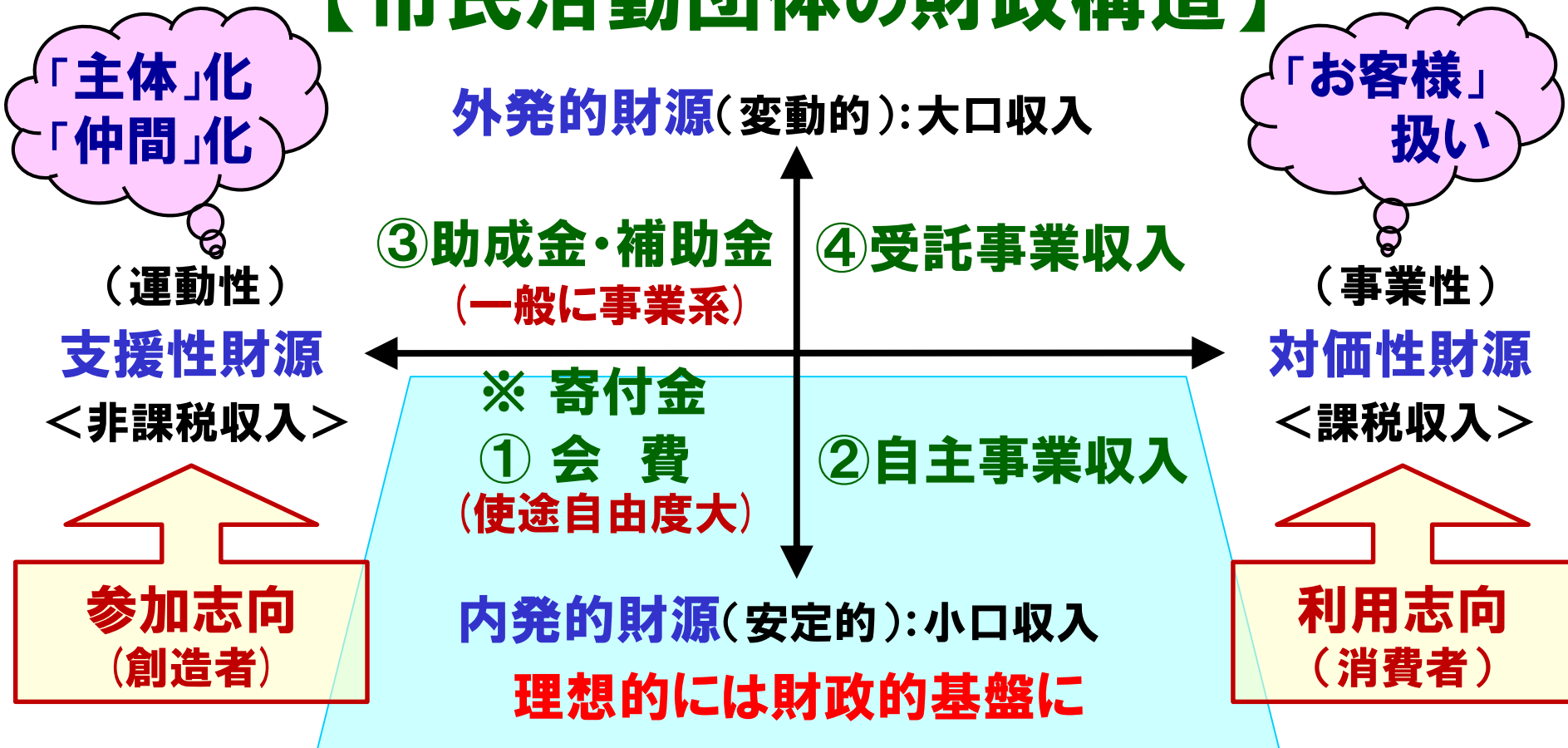
行為により「当事者」になる人

⇒市民を「**当事者**」にしていく市民活動

自身で悩み、工夫し、解決する中で「**わが事**」に

※ 市民が「参加」することの意義

【市民活動団体の財政構造】



2. 「参加」の展開

(1) 「参加」のステップ

■レベル0: 誘われる(最初は「受け身」の場合も)

■レベル1: 知る・出会う(受講者等の形で参加する場合も)

➢(現場・課題を)知る・当事者の声を届ける・実体験する・学ぶ

■レベル2: 参加する

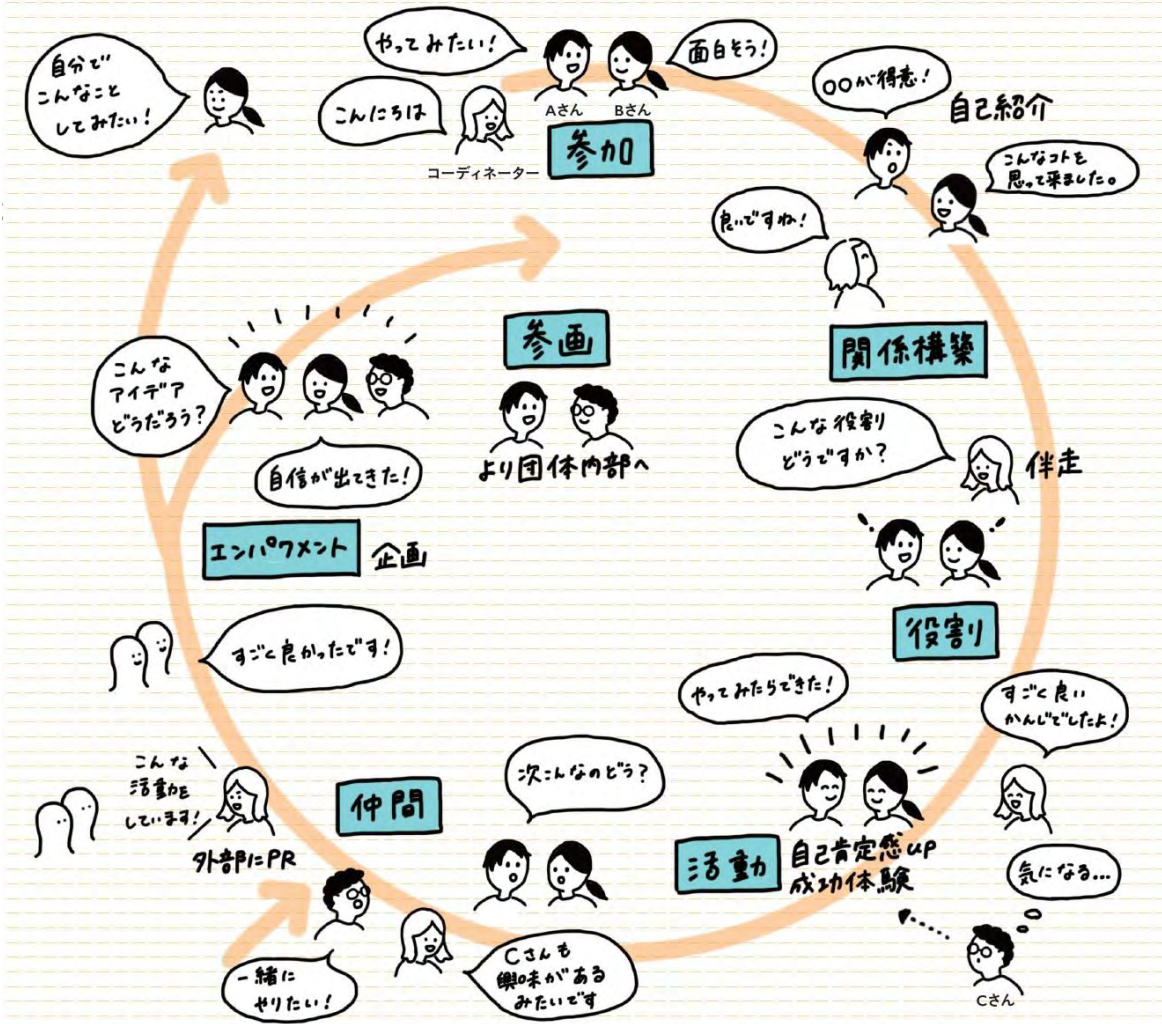
➢参加の機会・役割を作り“なぜ必要か”を伝える、「参加のメニュー」を選ぶ形で用意する、自分なりに考え工夫する余地がある(自由度 高)

■レベル3: 参画する(自負心をもって、より主体的に活動)

➢責任を感じる(応えられる力: response + abilityを自覚する)、全体の中で今していることの意味が納得できている、任せられる(ビジョン・価値観を共有する)、どこまで責任をもってやれば良いのかが分かっている

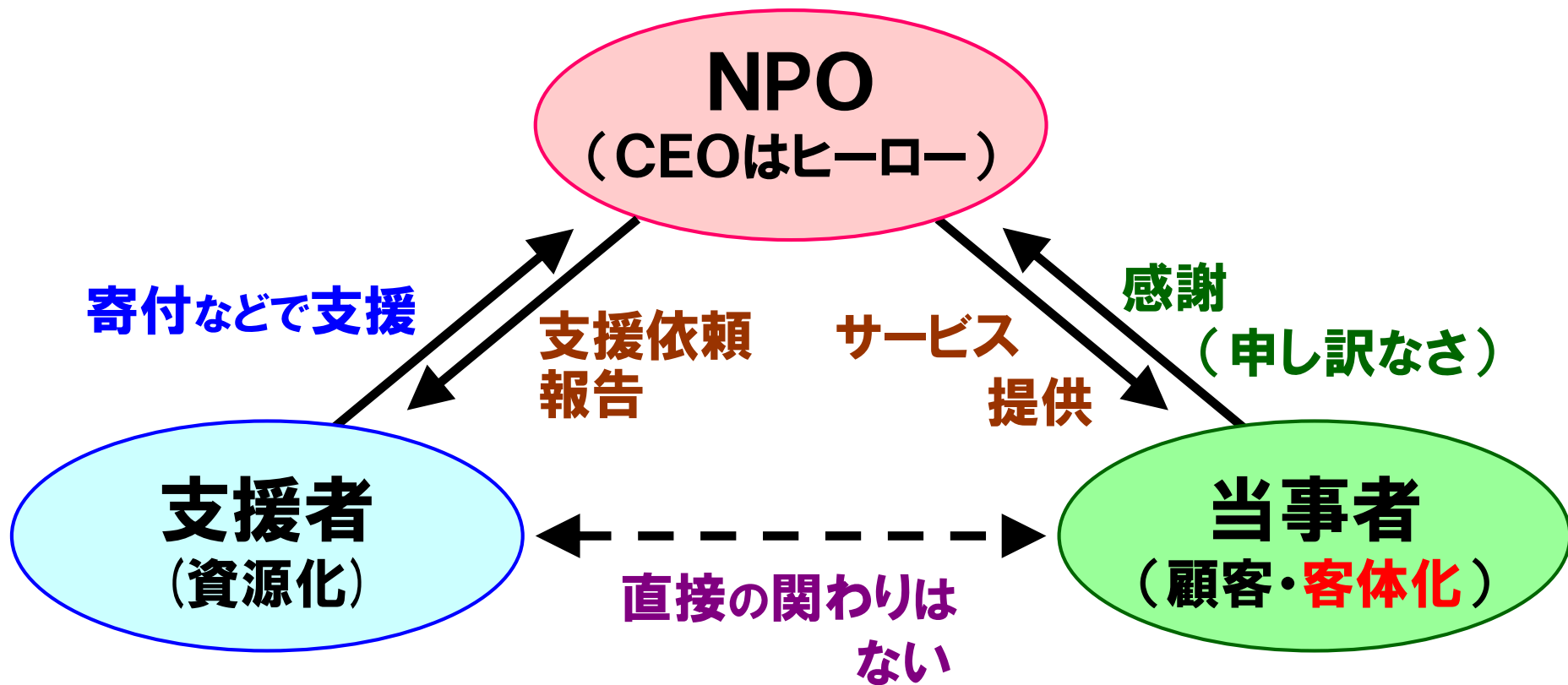
(2)市民参加のサイクル

社会課題に向き合う事件と遭遇、時間ができたと
 いったライフステージの変化など、様々なスタート。
 知人に誘われたといった受け身の形も少なくない。
 参加の度合いが深まっていくタイミングでコーディネ
 ネーター(図で髪の色が深まっていく白い女性)が関わっている場合
 も多い。このコーディネーター役は、参加者自身が
 担うこともある。

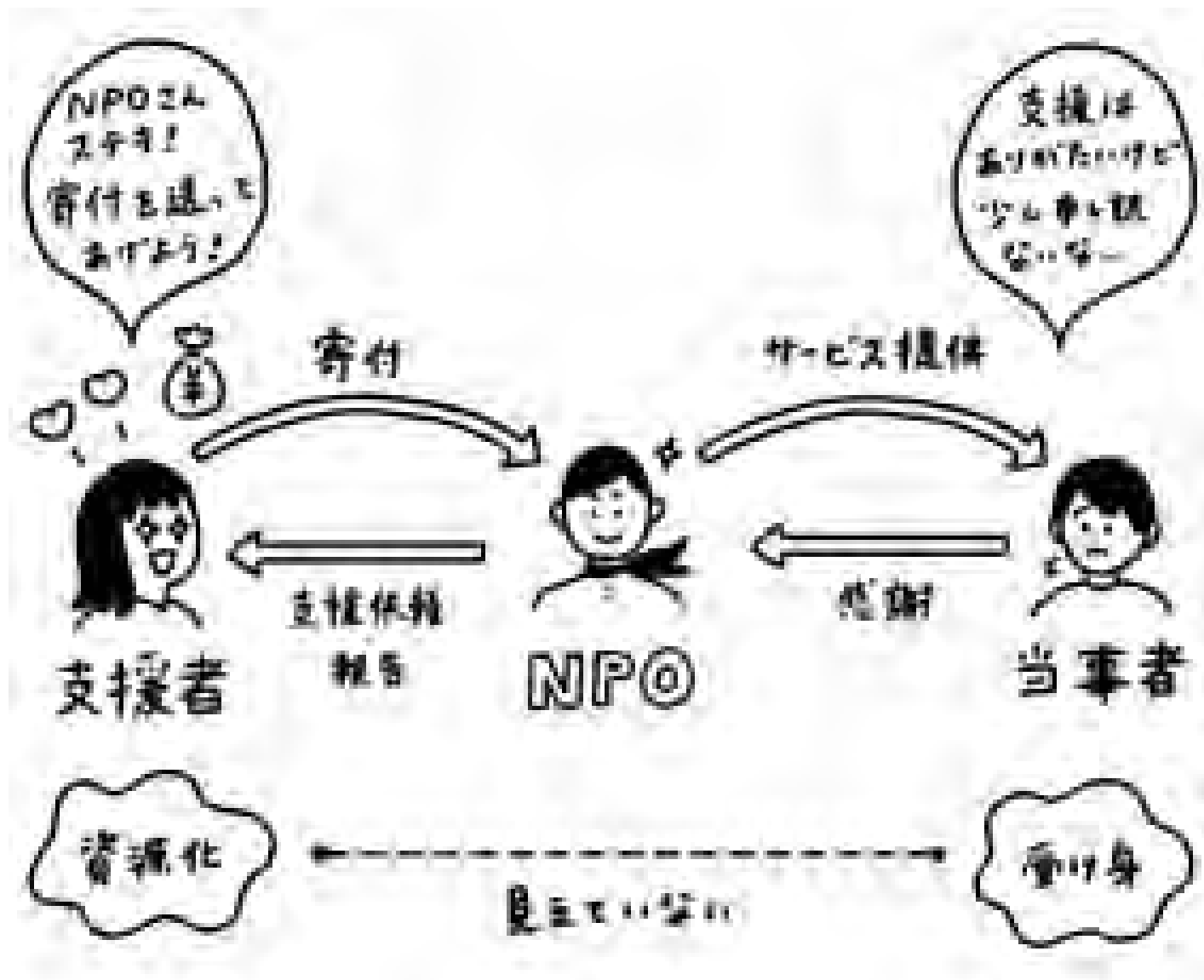


3. 誰が「主体」になるかで見える2形態

※ 「ソーシャルビジネス」等で時に見かけるスタイル



「支援者」を募るだけでは、支援者はNPOの陰に隠れる「縁の下の力持ち」。「当事者」も顧客化してしまい、当事者と支援者が直接かかわりを持つこともないままに、NPOだけが目立つ…状況に。



NPOは「参加の受け皿」…？

・阪神大震災で意欲



・NPO法成立後、しばらくは
まだ意欲が高かった

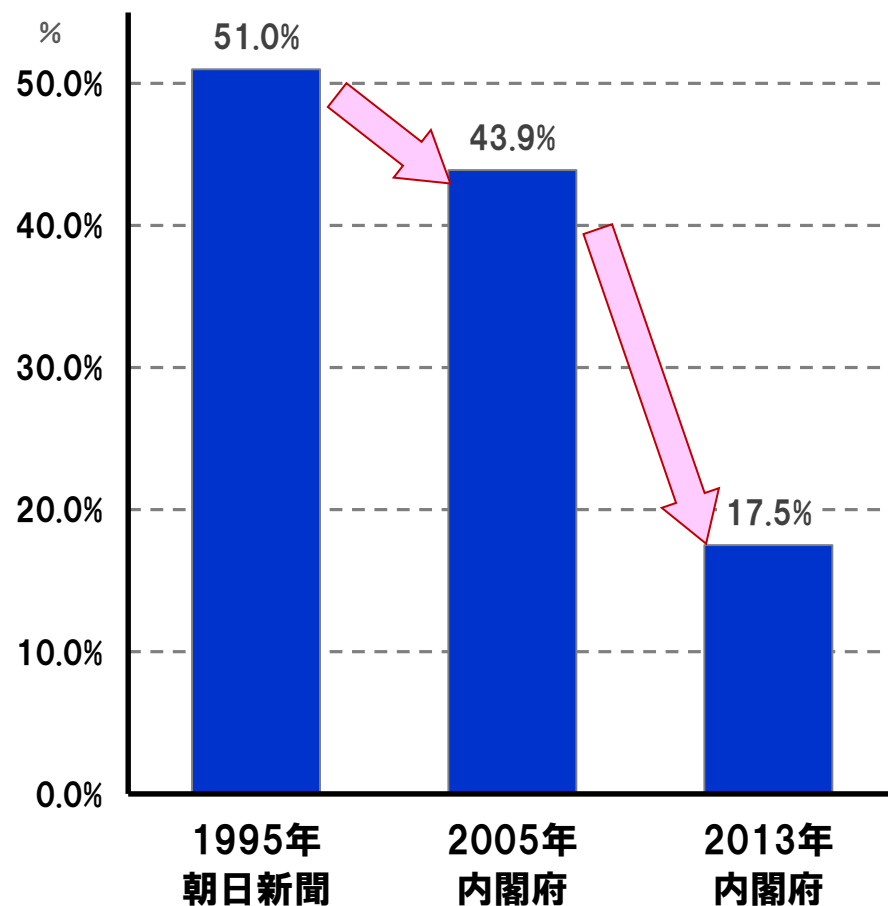


※しかし、ボランティアの
参加度が低いNPO法人
が少なくない現実（「参加
の受け皿」足りえず）で…



・近年、大きく低下

NPO活動に参加したい



※ 課題の存在を示し、 活動の方向性を定める「当事者」

(1) 個人的問題、秘された死とされた“自死”が 社会問題と位置づけられた経緯

- 「隠される死」「忌避される死」
- 遺族が背負う「加害者意識」
- あしなが育英会の研修が扉を開く
- 遺族としてのカミングアウト
／公衆の前での訴え

「自殺対策基本法」の目標

- ⇒ 自死者を出さない
- 自死者遺族を癒す



※ 課題の存在を示し、 活動の方向性を定める「当事者」

(2) 障害者運動の大転換も、障害当事者が 声をあげたことが起点

心中未遂事件で、障害児だけが死に
殺人罪に問われた母親に対して
近隣住民らが「減刑嘆願運動」。

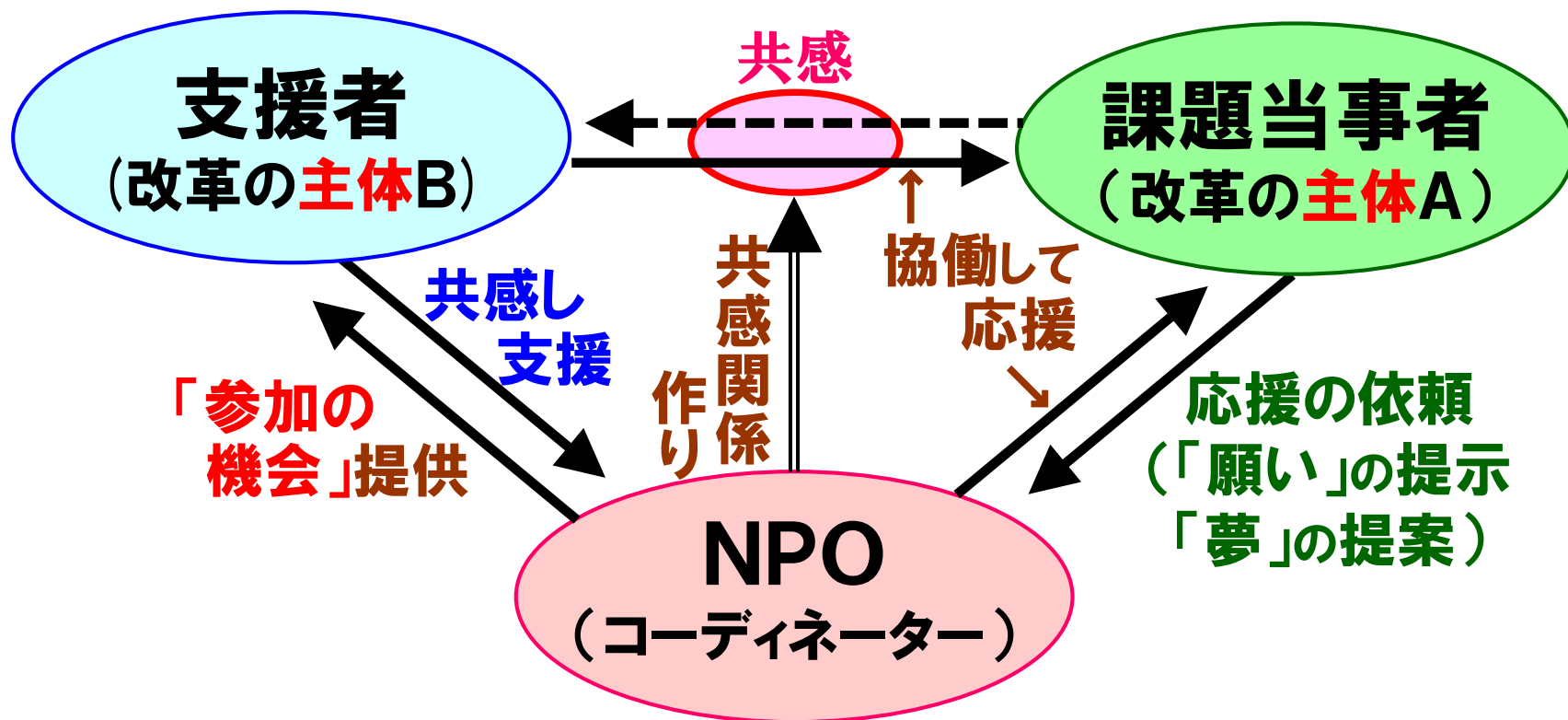
神奈川青い芝の会 = 障害当事者は、
なぜ“障害児の殺人は減刑”される
のか！と、鋭く問題提起。

1974年 優生保護法「改正」を阻止

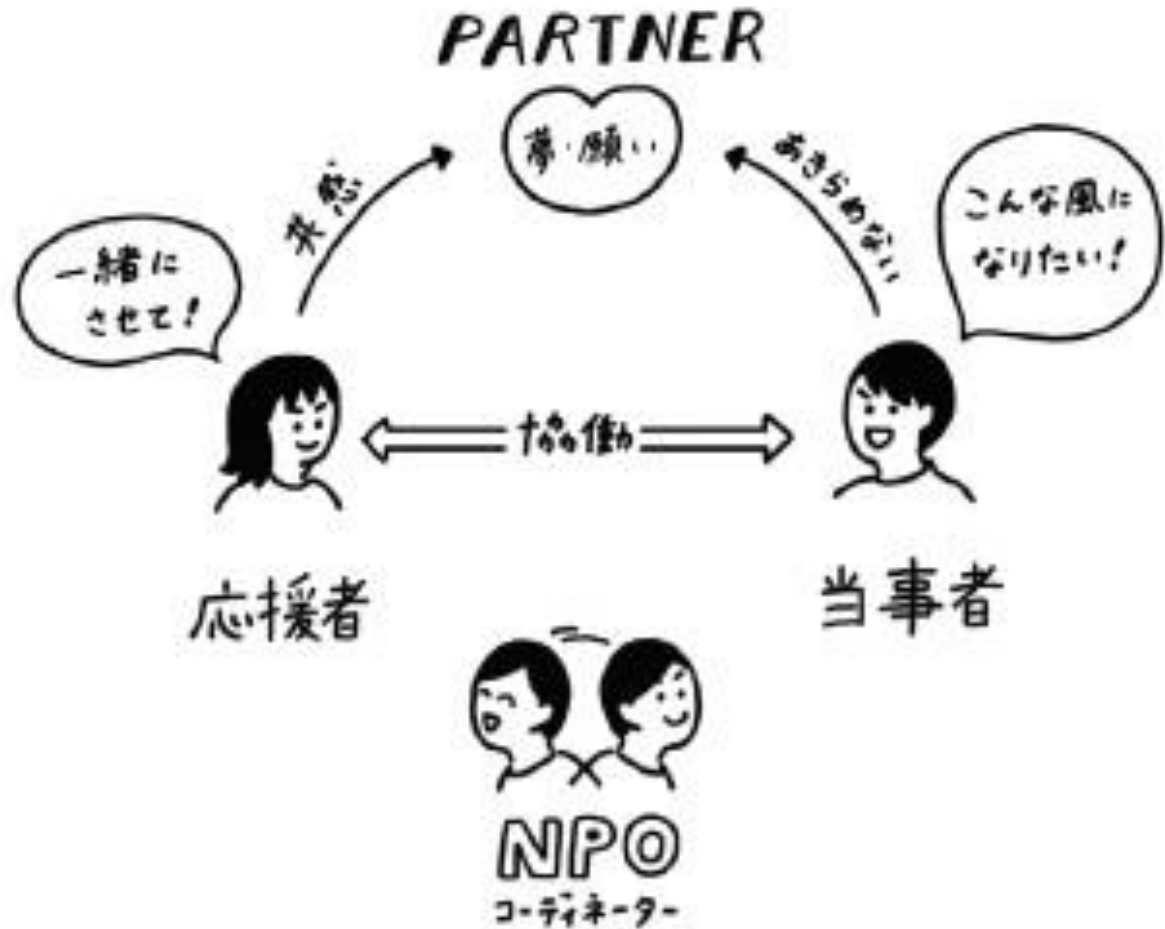


3. 誰が「主体」になるかで見える2形態

※ 「市民参画・市民主導型NPO」のスタイル



当事者・市民が主役



「当事者」の夢・願いを起点に、その思いに応え共感して「応援者」が広がる関係が生まれれば、両者の対等な (coordinate) 協働が生まれる。NPOは、この共同関係作りを促すコーディネーター役となる。

4. そこで、大切にしたいこと

(1) 参加を支える組織文化が大切

団体のビジョンや市民参加についての考え方を、団体内で共有すること。

代表者、コーディネーター、スタッフだけでなくボランティアとも
ビジョンや理念と市民参加について
定期的に対話することが大切。



4. そこで、大切にしたいこと

(2) 対等に関わり合える仕組みづくり

スタッフとボランティアが
対等であるということ
みんなが意識化すること
と、
対等であることを実感で
きる仕組みづくりが大切。



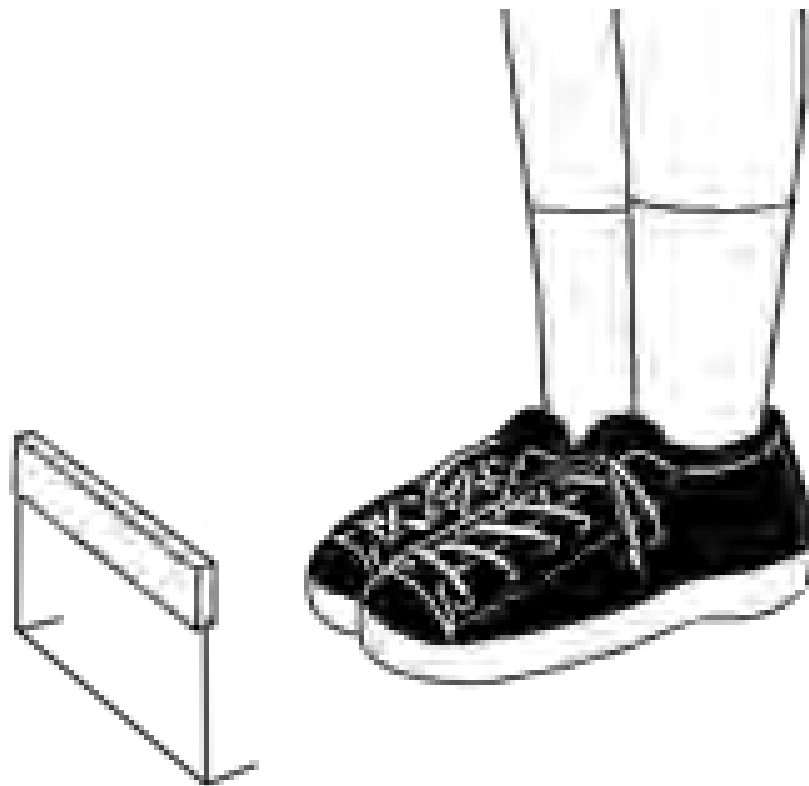
4. そこで、大切にしたいこと

(3) 敷居は低く

参加のきっかけの一つは、
楽しい、おいしいなど。

敷居の低い入り口は多様な人
の参加の促進につながる。

しんどいことに挑む時も参加し
やすい入り口づくりを意識する
ことが効果的なことがある。



4. そこで、大切にしたいこと

(4) プログラムやルールも大事

敷居の低さ、楽しさも大事だが、
プログラムや学びの場がある
こともまた参加のしやすさに
つながる。

支援の対象者を守るためにも
ボランティアであっても
一定のスキルや知識を身に
着ける場も必要になる。



4. そこで、大切にしたいこと

(5) 具体的な役割を作る

参加とは、役割。
参加の機会を
たくさんつくる
＝役割を
つくること。

役割と出番を
どう生み出すかが
大切。



4. そこで、大切にしたいこと

(6)工夫する余地(遊び)がある

ボランティア参加のプログラムは、一定のルールや参加方法などのプログラムがわかりやすく発信されていることが必要。

一方でコミットメントをより深めていくためには、ボランティア自身が主体的に取り組める余地(あそび)があることも大事。



4. そこで、大切にしたいこと

(7) コミュニティを育む

ボランティア同士の関係性、
コミュニティを育むことも大事。
ボランティアにとって
仲間の存在が
エンパワメントになる。

また、問題が起きた時
ボランティア同士で解決することもできる。

コミュニティを育むことでコーディネーターが
すべての役割を背負わなくてもよくなる。



4. そこで、大切にしたいこと

(8)一人ひとりの思いや個性を受け止める

参加する市民は多様。

一人ひとりの個性を受け止めることでその人にとっての居場所になっていく。

時に言葉の奥にある思いを引き出すこともコーディネーターの役割だ。

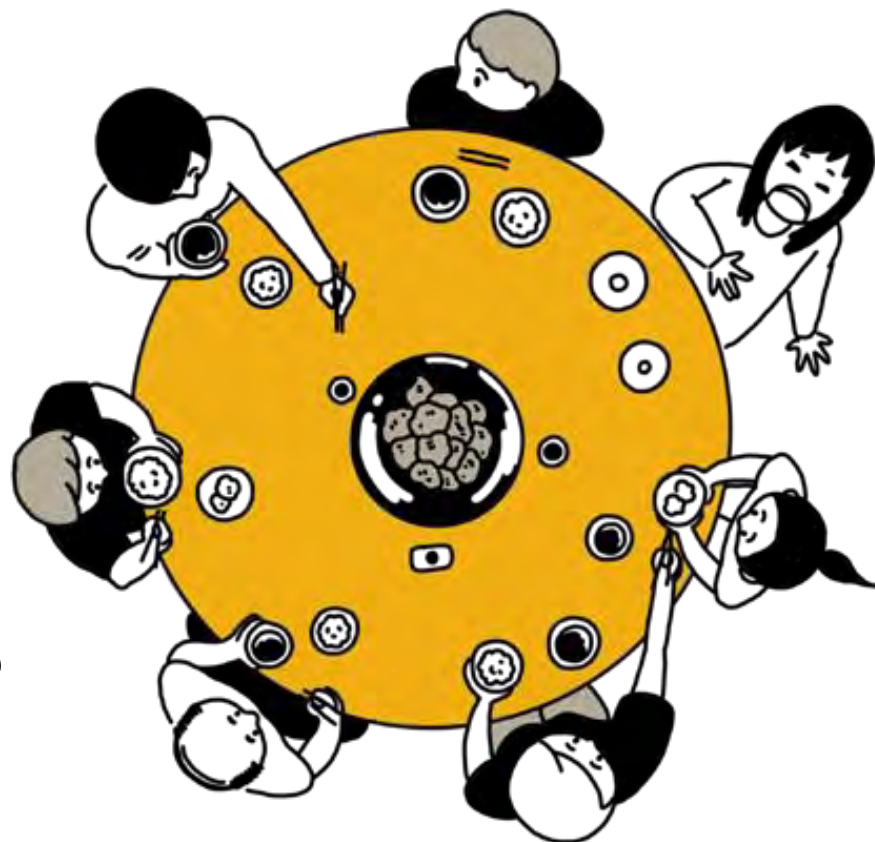


4. そこで、大切にしたいこと

(9) 安心できる場づくり

参加の理由は
そこが自分にとって
安心できる居場所であるから
と答えたボランティアは多い。

食事を一緒に食べる機会を
持つなど
直接活動とは違う場などを
意識的に作っているという声も
多くある。



4. そこで、大切にしたいこと

(10) 困りごとはチャンス

楽しいと並んで
困りごとは参加を広げる
大きなチャンス。

困りごとを解決するプロセスに
多様な人に参加してもらうことが
参加の広がりにつながる。

